

神殿の余白に民衆が遺したもの：古代エジプトより



深谷雅嗣

Masashi Fukaya

【概要】古代エジプトにおいて、文字の読み書きができることは美德とされ、書記になることは理想だった。農夫や工人など、他の職業は辛く、厳しいものと説いて、書記であることを謳歌する「教訓文学」は、多く伝わっている。役人として忠実に仕事をこなす彼らは、執拗と言える記録狂でもあった。そのお陰で、累代の家系、住所、出張先が判明している個人も存在する。乾いた風土において、ひとたび墨を落とせば、それが消えないことを経験的に知っていたエジプト人は、あらゆる媒体に痕跡を残そうとした。それは、職務遂行の枠組みを超え、自己顕示や祈りにもなった。その一例が「落書き」である。この度は、宗教中心地だったテーベの神殿群に残る落書きとその異形の一部を紹介しつつ、民衆の願望のあり方を覗いてみたい。



テーベ図 (現ルクソール) 深谷

M. Fukaya, *Socio-religious functions of three Theban festivals in the New Kingdom: The Festivals of Opet, the Valley, and the New Year*, Thesis (D. Phil.), University of Oxford, 2014 (to be published from Archaeopress in 2017).

新王国時代年表

第 18 王朝 1550 – 1307BC

アハメス	1550 – 1525
アメンヘテプ 1 世	1525 – 1504
トトメス 1 世	1504 – 1492
トトメス 2 世	1492 – 1479
トトメス 3 世	1479 – 1425
ハトシェプスト	1473 – 1458
アメンヘテプ 2 世	1427 – 1401
トトメス 4 世	1401 – 1391
アメンヘテプ 3 世	1391 – 1353
アメンヘテプ 4 世	1353 – 1335
スメンクカーラー	1335 – 1333
ツタンカーメン	1333 – 1323
アイ	1323 – 1319
ホルエムヘブ	1319 – 1307

第 19 王朝 1307 – 1196BC

ラムセス 1 世	1307 – 1306
セティ 1 世	1306 – 1290
ラムセス 2 世	1290 – 1224
メルエンプタハ	1224 – 1214
セティ 2 世	1214 – 1204
サプタハ	1204 – 1198
タウセレト	1198 – 1196

第 20 王朝 1196 – 1070BC

セトナクト	1196 – 1194
ラムセス 3 世	1194 – 1163
ラムセス 4 世	1163 – 1156
ラムセス 5 世	1156 – 1151
ラムセス 6 世	1151 – 1143
ラムセス 7 世	1143 – 1136
ラムセス 8 世	1136 – 1131
ラムセス 9 世	1131 – 1112
ラムセス 10 世	1112 – 1100
ラムセス 11 世	1100 – 1070